

原郷の森への誘い

小説は、ある日森で目覚めた横尾の分身 Y が三島由紀夫と宇宙霊人に出会うことから始まる。ふたりは、ダンテを案内するヴィルジリオのごとく、これから Y を導き、芸術家や歴史上の人物たちに引き合わせるという。現れたのは、画家、小説家、映画監督に音楽家、医者に落語家、文化人類学者。王に教祖、物語の登場人物、横尾のかつての飼猫に神様までと、キャラクターも横尾との関係性も実にさまざまだ。彼らは横尾の作品について各々が持つ視点から好きに語っては消えていく。何がテーマでどこに向かっているのかすぐには掴めないような会話が延々と続くかのようだが、全編を通して見ると壮大な横尾論が浮かび上がってくる。当館 2 階の展示では、文字だけで表された小説の世界観を象徴的に表すことを試みる。木に見立てたいくつかの柱と、木漏れ日のような照明によって森を模した空間内に、関連する横尾作品と小説から抽出したセリフを無作為に配置する。隣り合う作品の間には、一見すると主題もテーマも技法にも共通点を見出すことができず、まさに種々雑多な「森」を体感することになるだろう。だがその中を歩き回り、作品から作品へと目を移していくうちに、いつしかそれらが思わぬ点で紐づけられていることに気づくかもしれない。まるで星の並びによって現れる星座のように。



2019年に当館で行われた公開制作の際に横尾が着手したものの未完成のままになっている作品。1970年、雑誌『平凡パンチ』の企画で横尾が19人の女性のヌードを富士山嶺で撮った写真を元にしており、よく見ると木の枝に座る人らしき姿を認めることができる。木も葉も地面もすべてが同様のタッチで描かれ輪郭線が消滅した画面には、幻のような森が浮かんでいる。

《(原郷の森)》

2019年

181.8 × 227.3 cm、油彩・布

作家蔵(横尾忠則現代美術館寄託)



小説において三島由紀夫は、Yを導くという重要な役割を担うが、現実世界においても横尾に多大な影響を与えた人物だった。

1968年に横尾は写真家の篠山紀信と組み、彼にとってのアイドルとのツーショットを撮り、それを写真集として発表しようと計画する。その最初のアイドルが三島由紀夫であり、写真に残った姿が本作にも引用されている。地球の上で争いもつれあう男性たちを制するかのごとく優雅に横たわる三島由紀夫。その上には、宇宙霊人たちの頭部が浮かんでいる。1994年に描かれたこの作品ではすでに『原郷の森』の主要人物が現れている。

《死の愛》

1994年

227.3 × 182.4 cm、アクリル・布

作家蔵(横尾忠則現代美術館寄託)

原郷の森への誘い



《デュシャンピアン》
2010-2013年
100.0 × 80.0 cm、油彩・布
作家蔵(横尾忠則現代美術館寄託)

江戸川乱歩、ルネ・マグリット、ジョルジョ・デ・キリコ、ジュール・ヴェルヌ、コナン・ドイル、クロヴィス・ストリュユ…と、この作品には横尾が好んだ作家や画家たちの要素が詰め込まれている。これまでは作品に描くことで交わされていた横尾と彼らの会話が、小説という形でも表されたことで私たち見る者にも新たな視点もたらされた。

1980年代に横尾はマルセル・デュシャンを初めて作品のテーマに取り入れ、2005年以後はその頻度を高めた。「デュシャンピアン」はデュシャン研究者や愛好者を指す言葉で、画中にもデュシャン作品への言及がちりばめられている。中央の女性は口髭よりデュシャンの作品《L.H.O.O.Q》を暗示するが、その顔には彼と交流のあったサルバドル・ダリが、その身体には横尾のピンクガールが重ねられている。デュシャンはピカソ、キリコ、ピカビアと並んで小説に最も頻出する画家であることから、横尾芸術に与えた影響の強さを伺わせる。



《美の盗賊》
2008年
227.3 × 181.8 cm、油彩、スタンプ・布
作家蔵(横尾忠則現代美術館寄託)

小説では、画家、文筆家に続いて映画関係者が多く登場する。中でも黒澤明は最も発言の回数が多い人物。実際のところ、互いの家が近いこともあり、横尾は晩年の黒澤の家をよく訪れては映画談義を交わしていたという。本作のタイトルは黒澤作品からとられており、ヒロインの原節子の姿や人物像の配置も映画のポスターが元になっている。横尾は憧れの女優だった原を何度も自作に描きこんでいる。



《わが青春に悔いなし》
1994年
162.5 × 130.7 cm、アクリル・布
作家蔵(横尾忠則現代美術館寄託)

異界からのメッセージ

3 階展示室では、横尾芸術における 6 つのキーワードに焦点を当て、原郷の森の住人たちの会話を通して掘り下げることを試みる。「首吊り縄」は、1965 年に横尾がはじめて自分のために制作したポスター《TADANORI YOKOO》に描かれて以来頻出するモチーフであり、芸術家としての横尾像を暗示する。「ピンクガール」は横尾がはじめて絵画の個展を開催するにあたって制作した一連の女性像であり、グロテスクに笑いながら開けっ広げな肢体を晒すピンク色の女たちは、横尾芸術のアイコンのようにになっている。「滝」は 1980 年代後半から頻出するモチーフであり、これに関連する滝のポストカードを使ったインスタレーションもまた代表作に数えられる。2000 年には、かつて模型屋だった故郷の建物を撮影したことをきっかけに Y 字路シリーズの制作が始まり、これまで無数のバリエーションが生み出されてきた。「寒山拾得」は、詩作に生きた風狂の僧という生き様が横尾にとっては理想の芸術家像に重なるとして、2019 年より集中して描かれているシリーズである。同じモチーフを繰り返し用いたり、数年おきに同じ主題にたち戻ったりする「反復」の手法は横尾芸術を最も特徴づけるものである。これらの特徴を持つ作品群について、原郷の森の人々はどんな会話を交わしているのだろうか。横尾の作品を見ながら彼らの会話に耳を傾けるべく、本展では兵庫県立ピッコロ劇団の協力を得て、小説に出てくるセリフを録音し会場で流すことを試みる。



キリコ

「Yが三叉路を自分なりに変化させていけば文明は見えてくる。でもきおって何かやるとおかしくなりますよ」

—『原郷の森』 p.68より

《暗夜光路 N市-I》

2000年

72.7 × 91.0 cm、アクリル・布

横尾忠則現代美術館蔵

宇宙霊人

「Yさんがこのところ寒山拾得を集中的に描いているのは拾得が箒を持っているように、Yさんの心のお掃除をしているのです。ですから、埃ひとつないこのリゾート海岸のようにすがすがしいのです。」

—『原郷の森』 p.488より

《寒山拾得 2020》

2019年

各193.9 × 112.1cm(2枚組)

油彩・布、襖の引手

作家蔵(横尾忠則現代美術館寄託)





鉄斎
「Y、今お前に描ける滝がある。それは今だ。Y流三幅滝を描けばいい。過去に滝を描いていない奴は薄っぺらだ。85歳を目指す上で滝はお前にとって大切だ」

—『原郷の森』 p.329より

《ミケランジェロと北斎の因果関係》

1990年

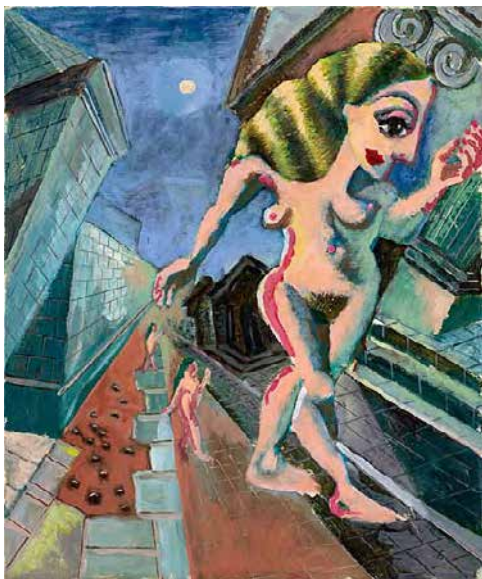
227.3 × 162.1 cm、アクリル・布

横尾忠則現代美術館蔵

三島

「ショーペンハウエルか知らないけれど、君のデビュー当時、流行っていたらう。芸術は模倣だと。あれが反復だよ。君が模倣というか模写する、それが反復だよ。反復という事が芸術の基本みたいなものだ。思想の反復、哲学の反復、それを解く奴がいないと、君は流行の先取りとしか思われない。これを解く奴がいないとYのやっていることは解らないだろうなあ」

—『原郷の森』 p.172より

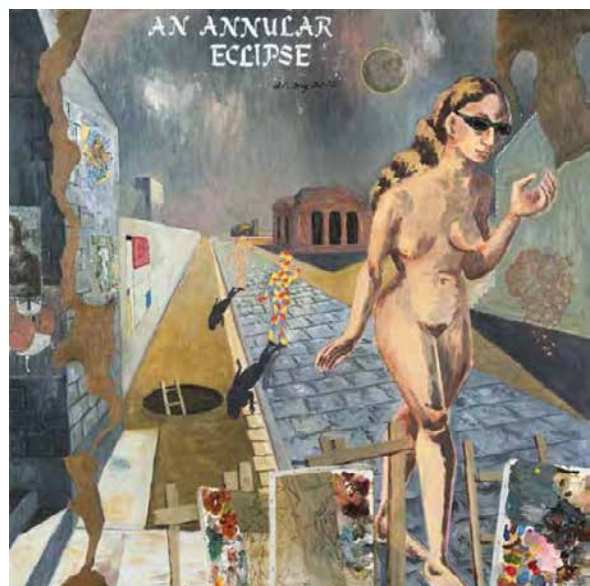


《月光の街 IV》

2003年

46.2 × 38.4 cm、油彩・布

作家蔵(横尾忠則現代美術館寄託)



《金環蝕》

2012年

145.5 × 145.5 cm、油彩、コラージュ・布

作家蔵(横尾忠則現代美術館寄託)

関連イベント

キュレーターズ・トーク

講師：当館スタッフ

日時：6月17日（土）、7月15日（土）、8月12日（土） いずれも 14:00～14:45

会場：当館オープンスタジオ

定員：30名（先着順） ※参加無料

■当館学芸員が展覧会のみどころについて解説します

※イベントの詳細や、その他のイベント情報については当館ウェブサイトをご覧ください

その他

■3F 展示室の効果音の製作にあたっては、兵庫県立尼崎青少年創造劇場（ピッコロシアター） / 兵庫県立ピッコロ劇団およびサウンド・ウッド・カンパニー代表林哲郎氏（音響制作）の協力を得ました

Y／俺：森 好文

キリコ：今仲ひろし

三島由紀夫：三坂賢二郎

ウォーホル：三坂賢二郎

森鷗外：三坂賢二郎

黒澤明：風太郎

富岡鉄斎：風太郎

谷崎潤一郎：風太郎

宇宙霊人：森 万紀

タマ：森 万紀

■展覧会の記録集は7月上旬頃刊行の予定です
主な出品作品の図版のほか、会場風景も収録

基本情報

横尾忠則 原郷の森 Yokoo Tadanori Forest in Soul



2023年5月27日(土)―8月27日(日)

開館時間 10:00―18:00 ※入場は17:30まで

休館日 月曜日 ※ただし7月17日(月・祝)は開館、7月18日(火)休館

主催 横尾忠則現代美術館([公財]兵庫県芸術文化協会)、神戸新聞社

後援 サンテレビジョン、ラジオ関西

助成 一般財団法人 地域創造

協力 株式会社 文藝春秋、**ホテルオークラ 神戸**

観覧料 一般700(550)円、大学生550(400)円、70歳以上350(250)円、高校生以下無料

※()内は20名以上の団体割引料金

※ 障がいのある方は各観覧料金(ただし70歳以上は一般料金)の75%割引、その介護の方(1名)は無料

※ 割引を受けられる方は、証明できるものをご持参のうえ、会期中美術館窓口で入場券をお買い求めください

出品点数 絵画・ポスター等 約160点

※ 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、検温などへのご理解・ご協力をお願いいたします

※ 状況に応じて予定が変更になる場合があります。最新情報は当館ウェブサイトをご覧ください

お問合せ

横尾忠則現代美術館

〒657-0837 兵庫県神戸市灘区原田通3-8-30

tel. 078-855-5607(総合案内) fax. 078-806-3888

学芸担当:小野 尚子<ono_naoko@ytmoca.jp>

広報担当:早水 千尋<hayamizu_chihiro@ytmoca.jp>

画像データは当館ホームページ(<https://ytmoca.jp>)のプレス専用ページからお申込みいただけます
ホームページに掲載されていない画像は、上記連絡先までご請求ください

横尾忠則コレクションギャラリー

施設概要

2021年3月に、当館4Fに横尾忠則コレクションギャラリーが新設されました。従来アーカイブルームの一部に設けられていた資料展示コーナーを拡張し、横尾忠則の手もとに保管されてきた様々なアーティストの作品やコレクション、アーカイブ資料などを自由に組み合わせた多彩な展示を行っています。

開催展覧会

YOKOO TADANORI COLLECTION GALLERY 2023 Part1

第3回となる今回は、同時開催の「横尾忠則 原郷の森」展に関連づけ、小説『原郷の森』に登場するフランス・ピカビア（1879-1953）、ジョルジョ・デ・キリコ（1888-1978）、アンディ・ウォーホル（1928-1987）ら西洋近現代美術の巨匠たちの作品を展示します。横尾が敬愛する彼らは、小説の中でどんなメッセージを送ってきたのでしょうか。横尾が書き綴った彼らの言葉を作品とともにご覧いただき、「原郷の森」をより深く探索する手がかりにしてみてください。

さらに、作者名さえわからない、しかし横尾が惹かれて収集した作品も合わせて展示します。古今東西、有名無名に関わらず数多の芸術家たちが集い語りかけてくる「原郷の森」の原型がここにあるのかもしれません。

会 期 2023年5月27日(土)ー8月27日(日)

開館時間 10:00ー18:00

※入場は17:30まで

休館日 月曜日

※ただし7月17日(月・祝)は開館し、翌18日(火)休館

主 催 横尾忠則現代美術館([公財]兵庫県芸術文化協会)

観覧料 「横尾忠則 原郷の森」展のチケットでご覧いただけます

※本展のみのチケットは販売しておりません